あいち病害虫情報 最新情報

平成２５年４月１６日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類赤かび病防除

ムギ類赤かび病の感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。本年のコムギの出穂は平年よりやや遅れていますが、品種によっては出穂が始まっているところもあります。

１２日発表の１か月予報によれば晴れの日が多い見込みで、４月２０日から２６日は気温の低い確率が６０％です。このため、感染の好適条件は少ない見込みですが、今後、赤かび病の防除適期（出穂から３～４日後）を迎えるので、天候の推移に留意して、適宜防除を進めましょう。

水稲の育苗期防除

普通栽培の播種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

１　細菌性病害にも効果のあるテクリードＣフロアブルなどを用いて、種子消毒を行う。
２　浸漬処理法の場合、薬液温度は１５～２０℃とし、処理濃度と時間を守る。処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾する。
３　温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：６０℃、１０分）を守る。
４　高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避ける。
５　出芽温度は３０～３２℃を守る。
６　種子消毒後の廃液は、適正に処理する。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替える。また、温湯種子消毒やエコホープＤＪなどの微生物農薬を利用する方法もある。ただし、微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が１０℃以下だと効果が劣るので注意する。
７　種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理する。

６月下旬まで果樹カメムシ類は少ない

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の飛来数は、越冬成虫量からおおよそ予測できます。今年の果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬成虫量は、平成17年、23年に並び過去10年で最も少なかったため、６月下旬までは果樹カメムシ類の飛来数は少ないと予測します。詳細は、４月３日発表の「果樹カメムシ情報第１号」を参照してください。

落葉果樹の病害虫

モモハモグリガの越冬世代成虫のフェロモントラップ調査では、平年に比べ誘殺始めがやや早く、第一世代幼虫の発生ピークも平年より早いと予測します。フェロモントラップによる誘殺状況とモモの生育ステージに留意し、落花１週間後を目安に適期防除を心がけましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップ調査では、平年に比べ誘殺始めがやや早く、４月第１半旬頃に誘殺数のピークを迎えました。越冬世代成虫は、展葉したモ

モの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こすので、防除適期を逃さぬようモモハモグリガとともに防除しましょう。

ナシ黒星病は、４月上旬の巡回調査の結果、特に西三河地域で平年に比べ発生量が多い状況です。また、昨年秋の発生量が多かったため、越冬菌量が多いと考えられます。降雨が続くと発生量がさらに増加するおそれがあります。昨年の発生量が多かったほ場では、特に注意しましょう。

ナシ赤星病の冬胞子層は成熟してきており、降雨があれば、小生子が本格的に飛散すると考えられます。開花後の防除をしなかった場合は、黒星病などとともに防除しましょう。

モモでは、４月６日に強風を伴う降雨があったため、せん孔細菌病の発生が懸念されます。昨年発生が多かったほ場では、感染を防ぐため薬剤防除を徹底し、春型枝病斑は見つけ次第、取り除きましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。適期防除を心がけましょう。

果菜類の病害虫

ナスでは、すすかび病とハダニ類の発生量がやや多い状況です。同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。すすかび病の発病葉やハダニ類の寄生の多い部位は、新たな発生源となるので、早期発見・早期除去に努めましょう。

ミナミキイロアザミウマの発生量が増加してきました。多発すると防除が難しくなるので、密度の低いうちから防除を徹底しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの３つです。次作の感染源を減らすためにウイルス媒介虫を施設外に出さないことを徹底しましょう。

トマト黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルスを媒介するタバココナジラミを死滅させましょう。

キュウリでは、自然換気が行われる時期ですが、施設開口部にはネットなどを張り、キュウリ黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマを外に出さないようにしましょう。

○ 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
○ 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
○ 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

問い合わせ先　愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085　FAX 0561-63-7820